令和元年度三ヶ所小学校　学力向上研修

１　個々の課題に合った授業力向上による主体的な研究推進とパートナーシップ

　　本校では、個人研究の形式をとりながら、その研究がR（リーディング・スキル）班とM（モラル）班のパートナーシップを伴った研究スタイルで推進することにより、個々人が様々な角度から幅広い視野での成果と課題を共有し合う研究となっているところに特色がある。

２　研究の全体テーマ

|  |
| --- |
| 「読む力」を高める授業・「自他を見つめる心」を育む道徳教育の創造　～「授業改善のための４つのチェックポイント」及び「道徳科」授業を要とした教育活動全体における道徳教育の実践を通して～ |

　「読む力」を高める授業の創造を研究テーマにした理由

　　それは、内容を理解するために必要となる、「文章を『読む力』を高める」ことは、様々な学力の向上につながると考えられるからである。

　「自他を見つめる心」を育む道徳教育の創造を研究テーマにした理由

　　それは、学習指導要領の改訂に伴い、道徳教育の充実が求められているからである。「道徳科」の授業の在り方や教育活動全体における道徳教育の工夫等、個々人が道徳教育に関する課題を見つめ、その課題解決に向けた研究を行うことは、今、教師が追究すべき内容と考えたからである。

３　年間６コマ（８０分/コマ）の研修で研究を充実させる手立て

　○　中間報告会（夏季休業中）

　　　研究実践計画書の説明、それまでの成果と課題の確認

　○　最終報告会（３月）

　　　個人研究実践報告（成果と課題、コンペ形式で行う）

　　各報告会では、本研究により、教師の授業がどのように変わったか、子どもたちの「読む力」を高められたか、「自他を見つめる心」を育むことができたか等を検証していく。

４　中間報告会（７月２７日）

　　各個人の研究実践計画書と研究実践の報告を行い、質疑・相談・感想発表等を行った。それぞれの課題解決に向かって努力がみられ、成果や課題が共有された。

R（リーディング・スキル）班：「分かる！できる」（個を伸ばす）まで教えよう！

M（モラル）班：「自他を見つめる心」を育てよう！

■　各個人研究テーマと指導方法の工夫・手立て

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  | 研究テーマ | 指導方法の工夫・手立て |
| １ | M | 自分を見つめ、他者と共によりよく生きる心を育む道徳科授業～第１学年道徳科における評価の工夫とその活用を通して～ | ○　「自分自身に関すること」「人との関わりに関すること」についての意識調査○　「道徳科」における児童の学習状況及び成長の様子についての評価の工夫　ア　発言による評価　イ　記述による評価　ウ　観察による評価　エ　評価表の作成○　「道徳科」の授業に関する評価の工夫　ア　授業者自らによる評価の方法とその活用　イ　他の教師による評価の方法とその活用 |
| ２ | R | 読む力を高める授業の在り方～算数科の授業を通して～ | ○　正確に文章を理解するための工夫　・「たこわかぎ」を用いての文章理解　・図を用いての文章理解○　対話的な学習への取組　・ペアや班で学習内容の確認 |
| ３ | R | 読む力を身に付けた児童の育成～国語科における授業研究を通して～ | ○　段落の構成をつかむための指導　・キーワードにサイドライン○　人物の気持ちを読み取る指導の工夫　・出来事、様子、気持ちの分類　・友達の意見を青で書く○　問いに対しての適切な答え方 |
| ４ | M | 道徳的判断力、行動力を身に付けた児童の育成～第４学年　特別の教科「道徳」の授業を通して～ | ○　意識調査○　指導方法の工夫○　評価の充実 |
| ５ | M | 自分を大切にし、お互いを認め合う児童の育成～道徳科における児童の主体的な学習の充実を通して | ○　自分の考えをもとに表現する機会の充　　実　・自分の考えをもたせるための発問の工　　　夫　・話合い活動の形態づくり○　自己を振り返る時間の確保　・学習指導過程の見直し |
| ６ | R | 資料の読み取りや考察を促す手立ての工夫～小学校第６学年社会科の授業実践を通して～ | ○　導入において、学習に必要な知識をミニテストなどで確かめる。○　目的に沿った多様な資料を準備し、資料から読み取れることを列挙・分類したり、疑問点を抽出したりする場を設ける。○　まとめにおいて次時以降での資料の読み取りや考察に役立てるために知識を整理する。 |
| ７ | R | 数学的な考え方や表現力を伸ばす学習指導方法の研究～文章問題把握と児童の思考表現のための手立てを通して～ | ○　問題文把握のための工夫　・体験的な場面絵の提示　・一文ずつ提示し、絵や図を作成○　自力で解決する力を身に付けるための指導の充実　・習熟問題・応用問題の精選　・家庭との連携○　思考を表現するための教師の指示や発問の工夫　・自分のことばで話すきっかけづくり　・誤答を提示し、間違いの説明 |
| ８ | R | 基礎的・基本的な知識や技能を身に付けた児童の育成～通級指導の授業における指導方法の工夫や改善を通して～ | ○　「授業改善チェックポイント」の活用　・児童一人一人の理解度を１単位時間の授業の中で評価し、定着や習熟を図る時間が確保されているか。　・指導内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業を進めているか。○　文章を読み取る工夫　・読み取りの方法やポイント　・言葉の意味や語彙を確かめる。 |
| ９ | R | 考えること、知ることに喜びを感じる子どもの育成～実感を伴った理解を図る理科学習指導の充実を通して～ | ○　主体的に取り組む実験・観察の在り方　・実験方法の組み立てと結果の確実な見通し○　予想と考察の段階における対話の充実　・理科の用語を適切につかわせる手立て　・共通点や相違点を読み取らせる手立て○　学びを深める評価の充実　・学びの足跡（理科で身に付ける力）　・形成的評価（週末の課題の充実）　・日常生活との関連（アウトプット） |
| １０ | M | 生涯、健康で豊かに生きる力を身に付けた児童の育成～「早寝・早起き・朝大豆」を推進する食育の取組を通して～ | ○　食に関する指導の充実○　地域・家庭との連携 |
| １１ | M | 自ら積極的に健康管理ができる児童の育成～規則正しい生活習慣の定着を図る取組を通して～ | ○　すこやか健康チェック表の取組　・すこやか週間に合わせて毎月すこやか健康チェックを実施　・生活チェック表により朝大豆の摂取率やメディア接触時間の把握○　健康生活アンケートや一日の過ごし方アンケートの実施　・朝食の内容や休日と平日における具体的な一日メディア接触時間の把握 |